


プログラム名	火起こし体験		活動時間 60分
概要	<p>○摩擦熱を利用した、まいぎり式の火起こしをする。 ○起こした火は、野外炊事やキャンプファイヤーなどに活用できる。 ○最大人数 80人（火起こし器 20セット有） ■1人 300円</p>		
ねらい (SDGs)		<p>○昔の火起こしの方法にふれる。 ○まいぎり式の火起こしが大変なことが実感できる。</p>	
準備物 (服装など)	<p>○教育センター・・・火起こし器セット（土台・本体・竹の受け皿） ガマの穂 ○研修団体・・・運動着、軍手、新聞紙</p>		
研修の流れ	<p>○班ごとに集合場所に集合（団体引率者の指導） ○活動についての説明と道具の配布（センター職員） ○活動場所に移動し、活動開始/終了 ○次の活動へ、もしくは片付け</p>		
研修場所	<p>集合場所 ○屋内・・・ロッジ</p>	<p>活動場所 ○屋内・・・ロッジ ○屋外・・・各炊事場</p>	
引率者への留意点	<p>○事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴による事前学習をしていただくと、当日の活動がスムーズに行えます。（閑谷学校ホームページ→研修プログラム） ・研修生の班分けをする。（4人班目安、最大20班） 野外炊事を行う場合、野外炊事の班編成でよい。 <p>○研修当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中の観察指導を行う。 ・火傷がないように注意する。 		

活動の内容

○センター職員による説明

- ・ キャンプ場での注意事項、場所の確認
- ・ 道具の確認(下写真参照)
- ・ 実施の手順
- ・ 片付けについて

○活動の流れについて

- ・ 説明終了後、テント倉庫に道具を取りに行き、活動場所へ行く。
ひとつのカゴにまとめる。
 - ・ ガマの穂をセンター職員からもらう。
 - ・ 写真【セッティングの様子】のように、準備する。
 - ・ 持ち手を、長くリズムよく上下させる。
 - ・ 煙が出てきても止めずに実施し続ける。
 - ・ 煙が大きく濃くなってきたら一旦止め、ガマの穂に落ちた黒い粉を見る。
 - ・ 黒い粉にやさしく息を吹きかけ、赤くなったら火種になっている。
 - ・ 小さめに丸めた新聞紙ではさみ、一緒に息を吹きかけ、新聞紙に発火させる。
- ◎野外炊事に活用する場合、前もってかまどを準備しておく。
発火したものを、やさしくかまどに移し、かまどの火種にする。

○片付けについて

- ・ 竹皿に残った灰を水の入れたバケツに捨てる。
- ・ 道具にススがついていたら拭き取り、カゴに整頓する。
- ・ テント倉庫に返却する。



※道具一覧



※セッティングの様子